

写真×和装羽織 パリへ挑戦

熊本の会社・崇城大 ファッションショー出展

熊本市中央区の下通アーケードで写真スタジオや衣装レンタル事業を展開してきた堤写真館が今年、社名をラブリントンに変更し、新たな試みとしてパリでのファッションショーに挑戦。崇城大学芸術学部の甲野善一郎教授と協力して、オリジナル写真をプリントした和装の羽織を制作し、3月のパリファッションウィーク期間中にショー出展を果たした。

ラブリントン代表で写真家の堤あこさんや甲野教授らが撮影した小国杉の風景

や、鮮やかな色彩の果物や花など、熊本を題材とした写真を反物に転写。地元の上田和裁技術研究所が6点のコスチュームに仕立て、凱旋門近くのギャラリーに設けられたランウェイに登場した。

「大学も当社も、パリでのショーは初めて。日本の素晴らしい文化である着物の発展のためにも続けたい」と堤さん。このほど県知事や市長を訪ねて経過を報告。甲野教授はショーの映像を解説しながら、「伝統と革新を合わせた新しい

小国杉の風景などプリント



パリのショーでランウェイを歩く甲野善一郎教授（左）と堤あこさん（右）
＝甲野さん提供

装いを、世界に向けて発信できた」と意義を話した。

（伊藤隆太郎）